

越谷名物  
太郎兵衛もち  
について

◎歴史講演会 主催 NPO法人 越谷市郷土研究会

講師

NPO法人 越谷市郷土研究会  
常任理事 高崎 力

平成18年1月29日(日) 午後1時30分より 越谷産業会館

明治三十年頃の越谷米の評判について「水稲は埼玉県越谷にて良種を産し、太郎兵衛、撰太郎を最も有名とし、菓子屋の有名なる者は必ず之を用ふ」とあり「越谷米といわれる種類にはこのほか細綿、柳綿、白髪綿などがある。」(田口晋吉著「米の経済」)。そしていずれの種類も東京の米市場では上位にランクされている。

資料1 明治十一年十二月 東京正米相場(稲の部)

1	越谷新米	一・〇七升
2	越谷米	一・〇二
3	谷原新米	一・一七
4	ワラ皮米	一・二〇
5	土浦新米	一・二二
6	葛西米	一・二二
7	土浦米	一・二四
8	行方米	一・二五
9	曾根米	一・二五
10	電ヶ崎米	一・二六
11	千湯新米	一・二八
12	行方新米	一・三一

日より一〇二日間開催した。出品者一万六千人、出品点数八万点、入場者四十五万人という未曾有の盛況であった。これを契機に以後各地に於て穀物、蔬菜、織物、家禽、醸造、工芸、機械等の品評会・共進会・勸業会が開催されるようになった。(以下年表参照)

これらのうち明治二十五年四月五日(十五日)にかけ粕壁町自助館で開催された南埼玉郡・北葛飾郡・中葛飾郡の三郡連合穀物品評会を次の資料2で概観してみよう。

資料2 明治二十五年四月

南埼玉北中葛飾郡穀物品評会要領報告書

(略)

出品ノ総数八四三三三ニシテ人員三九九人ナリ

粳米	三八三三	二六一人
糯米	四五	四三
大麦	二五	二五
小麦	八	八
大豆	五六	五六
小豆	一六	一六
而テ其審査ノ結果知事ノ褒賞ヲ得タル員數		
一等賞	六	六八
二等賞	三	三三
三等賞	一	一

大正十四年十二月出羽村農会がまとめた「太郎兵衛米ニ関スル調査概要」はそれまで口伝えであった太郎兵衛米に關し、初めて文章化されたもので要約すると次のようである。

遠く慶長年間(一六〇〇年頃)四丁野村(越谷市宮本町)名主会田太郎兵衛なる者が早稲播中から抜穂し増植したものとされ後世「太郎兵衛米」と呼ばれるようになったと伝えられている。ついで元禄年中(一七〇〇年頃)大間野村(越谷市大間野町)の中村某が改良して一層良好なる品種にした。明治二十三年(一八九〇)出羽村中村悦蔵、中村貞次郎等は更に改良して粒大きく茎稈強剛なる品種を作出し「明治太郎兵衛米」と称した。ついで明治四十三年(一九一〇)出羽村四丁野の大野市五郎は更に改良して「玉稲」を作出した。大正以後は埼玉県農事試験場で品種改良した「太郎兵衛稲崎一号」となり埼玉県奨励品種として全県下に普及し作付されていった。

三、品評会・共進会で上位入賞の太郎兵衛米

慶応三年四月のバリ万国博(幕府・薩摩藩・佐賀藩出品)、明治六年五月のウイーン万国博(明治政府初参加)に参加された明治政府は「殖産興業」を旗印に第一回内閣博覧会を上野公園(寛永寺跡地)で明治十年八月廿一

大麦	一	九
小麦	一	四
大豆	一	一九
小豆	一	五

褒賞明細表 (稲の部)

一等賞	太郎兵衛	越谷町	篠田次右衛門
二等賞	菅生村	菅生村	大熊安右衛門
三等賞	越谷町	越谷町	中村兼吉
			中川源吉
			桃木長蔵
			関根宇一郎
			新井国太郎
			関根松次郎
			渡辺佐十郎
			小江戸重次郎
			鈴木孝太郎
			戸田善次郎
			荒川与惣兵衛
			関根宗輔
			田中彦右衛門
			飯沼徳蔵
			高橋儀助

三等賞	玉子糯	江面村	高山伊三郎
"	比女	武里村	志村寿美吉
"	八重城	江面村	小林峯吉
"	玉子穗	八代村	倉持治助
"	銀世界	新和村	大家新太郎
"	細糯	蒲生村	中村信太郎

(以下略) (八潮市立資料館蔵)

以上糯の部では一、二等とも太郎兵衛糯、三等賞二十点中十四点が同じ、従って入賞総数二十五点中十七点が太郎兵衛糯である。

四、細糯とは

細糯は別名「御膳細糯」ともいわれる越々谷糯の一品種で蒲生村、大相模村の一部でしか作付は行われていなかった。

資料3 明治四十二年七月 越々谷糯の由来

現今東京市中に於ても喧伝せれつつある越々谷糯が如何なる動機に依り斯くの如き名を博するに至りしやに付ては世間其由来を知る者稀なり。依つて少しく其来歴を述べんに、往古埼玉郡瓦曾根村に中村彦左衛門(前蒲生村長目下日進銀行越々谷支店長中村彦左衛門氏の家なり)といふ者ありしが、徳川幕府より年々越々谷糯二百俵以上五百俵以下の御用を承はりて首尾能く御用を弁じつつありしを以て、中村家は苗字帯刀御免並に若干の御扶持を頂戴し居りて、幕府が大政奉還當時まで継続しつゝあり。而して越々谷糯と称する同地方附近に於て産出する糯米の総称と成れるが、中村家より徳川幕府に納入したる細糯と称する種類にて、同家独専のものにて(御止め米として他に耕作を許さず)他には決して種子の分与等を許さざるものなれば、現今に至るも細糯の種子は中村家の外作付を為すものなし。且つ該種は耕作甚だ困難にして收穫の如きも他の種類に比して一反歩優に一俵以上の減収なりと云ふ。去れば幕府御買上げの當時も、他の上糯に比して価格は一斗高の割合を以て計算せしものなりと云ふ。而して該糯米の取扱方に付ては頗る町重のものにて、先づ倉庫を別にし周圍に注連を張り、仙台籠にて扱若くは扱れ粒を選り分くると云ふ。殆ど一粒選りとも云ふ可き程にて其仕上げを終れば其内一俵を御搦き試めしと称して前送りをするものなるが、此時は「御用」の札を真先に押し立てて人夫に荷はせ「下に居ろ」の掛声にて江戸御米蔵に送り付くるものにて、此際通行の諸大名と雖も悉く道を避くるの規定にて其勢ひは実に宏大なるものなりしと。又御米蔵に入るにも蔵の内に更に鉄網を張りて特別の蔵置を為したるものなりと云ふ。要するに越々谷糯と称するは以上の来歴を有する者にて、中村家より徳川幕府に納入せし以來始めて全国に其名を知らるるに至りしものなり。

(明治42・7・7付「埼玉新報」国立国会図書館蔵)  
中村家は代々瓦曾根村の名主を勤める豪農で明和八年(一七七二)十一月勘定奉行石谷備後守より御膳細糯買受人に指定されて糯米を江戸城中御用として納めていたのが天明四年(一七八四)一月には其身一代帯刀苗字末代まで許可されている。

五、農会と品評会・共進会

明治政府による内閣博覧会には全国から出品物が集まり盛況であった。このような催しは政府の奨励と相俟つてやがて地方単位で開催され、村、郡、県、及びこれらの連合体でも行われる一方各地に農会が組織され、やがて単一農会、連合農会主催による品評会・共進会が企画運営されていくようになった。

資料4 明治三十年 南埼玉郡桜井村農会規約

- 第一条 本会ハ農事ノ改良発達ヲ謀ルヲ以テ目的トス (略)
- 第六条 本会ノ会務左ノ如シ
- 一、上級農会ノ報告ヲ会員ニ周知セシメ及上級農会ヘ報告ヲナスコト

一、農産品評会ヲ開クコト  
二、種苗交換及売買媒介スルコト  
三、虫害駆除ヲ謀ルコト  
四、肥料ノ共同購入ヲ謀ルコト  
五、試験場ノ設置及管理ノコト  
六、農具及土地改良ノコト  
七、耕耘及栽培改良ノコト  
八、獣疫及霜害予防ノ方法ヲ設クルコト (以下略)

(越谷市史 四)

資料5 明治三十三年 南埼玉郡農会会則

- 第一条 本会ハ郡内農業ノ改良進歩ヲ図ルヲ以テ目的トス (略)
- 第七条 事業
- 一、農産品ノ試験講習講話及共進会品評会開設  
二、町村農会ノ事務ヲ監督  
三、農産品ノ調査統計  
四、種苗種畜蚕種肥料農具等ノ交換分配  
五、耕地ノ整理灌漑排水及農家ノ副業  
六、動植物ノ病虫害駆除予防  
七、農業ノ保護ニ要スル森林樹苗植栽  
八、農会ヘノ報告ト町村農会ヘノ通知

(以下略)

(八潮市立資料館蔵)

資料6 明治二十四年十一月

南埼玉郡越谷町外十三町村連合勸業会規則

第一条 本会ハ農工商業ニ関スル重要事項ノ利害得失ヲ講究シ其ノ改良振興ヲ計ルヲ以テ目的トス

第二条 本会ハ南埼玉郡越ヶ谷町、大沢町、大相模村、川柳村、蒲生村、新方村、増林村、出羽村、八幡村、湖止村、大袋村、萩島村、榎井村、八條村ノ十四ヶ町村ヲ以テ一区域トス

第三条 本会ハ第一条ノ目的ヲ達センカガメ左ノ諸項ヲ奉行ス

- 一、談話会
- 二、品評会
- 三、評議会

(以下略)

(八潮市立資料館蔵)

資料7 明治四十一年十二月

長野県主催一府十県連合共進会

(現越谷市域の出品及受賞表)

一 変シテ肉食スルモノ漸ク多キヲ加ヘ 家禽鶏卵ノ如キ大ニ其需要ノ増加スルニ從ヒ之レカ供給頼ニ欠乏ヲ告ケ 殊ニ鶏卵如キ八年々支那ヨリ輸入スル卵数殆ント数百万顆ノ巨額ニ達セリ

(略)

思フニ家禽中最モ利益アルモノハ鶏類ナリトス 殊ニ農家ニ於テハ其ハ彼ノ有害ナル昆虫ノ駆除 彼ノ有益ナル鶏糞ノ肥料等均シク之レ農家業上莫大ノ補益ヲナスモノナレハ是レカ蕃殖ヲ図ルハ農家繁栄ノ事業トイフ可キナリ 然リト雖トモ今之レヲ飼養セントスルニ於テモ「其家畜」復或ハ肉用採卵各其種類ノ異ナルアリ「又」或ハ氣候風土各其適否ノ別アリ宜シク之レカ選択ヲナサスハ幸ケテ其利益ヲ見サル可シ

(略)

明治廿一年六月廿六日

埼玉県知事 吉田清英

(埼玉県立文書館蔵)

資料9 明治四十年十一月

大相模村養鶏ニ関スル調査

(略)

明治廿三年鶏種「淡色フラマ」「褐色レクホーン」「黒色スパニシ」等ノ輸入セラレシヨリ 中村重太郎

(町村)	出品数	受賞等級数	品名	受賞者
榎井村	五	四等賞一	大麦	須賀丑蔵
増林村	九	四等賞一		
出羽村	三			
大相模村	六	四等賞一	鶏	中村重太郎
越ヶ谷町	二			
大沢町	一			

(八潮市立資料館蔵)

六、大相模村の養鶏

資料7の長野県主催一府十県連合共進会において大相模村の鶏が四等賞を獲得しているのでこの経緯を探ってみる。大相模村の本格的養鶏は明治二十一年の埼玉県知事による「論述」および明治二十三年からの西洋鶏の輸入以後と考えられる。

資料8 明治二十一年六月 家禽飼養奨励の論述

家禽ハ農家欠クヘカラサル有益ノ副産物ナリト雖モ從來ノ慣習トシテ之レヲ飼養セシモノハ多クハ徒ニ時晨ヲ知り遺粒ヲ拾ハシメ 或ハ愛翫ノ具トナスニ過半スシテ取テ其経済如何ハ慮テ顧ミサルモノノ如ク 從テ其飼育ノ数モ甚タ寡ナカリシナリ 然ルニ晚近世態

ハ之レカ種類ヲ購入シ飼養蕃殖スルト共ニ在来ノ地鶏交趾ノ類ト交尾セシメ雜種ヲ作出シタルニ 産卵頗ル多ク殊ニ性質ハ温順ニシテ柵飼ニ適當セルヲ以テ村民中是等種類ヲ増殖ス

(略)

一利一害ハ教ノ免レサル処ニシテ之レカ為忽チ流行熱変シ各戸放飼ノ結果耕作物ヲ害シ取支相償ハストノ説ヲ唱導セラレ 熱度ノ冷却ト共ニ斯ノ有益ナル事業ハ漸次衰退シ明治三十年頃ニ至リテハ殆ント飼養スルモノ稀ナルニ至レリ 然レトモ創始者ハ之レヲ意ニ介スルニ足ラストシ益々改良奔逸ヲ図リシニ人目シテ狂ナリトセリ

同三十五年ニ至リ真ノ熱心家齊藤大助、鈴木熊次郎、浅見唯次、関根松次郎等ノ同志ヲ得相共ニ養鶏ノ利益ヲ唱ヒ蕃殖ヲ奨励セシガ為メ、爾來飼養家ヲ増加シ毎戸飼育セサル者ナキニ至レリ

(以下略)

(埼玉県立文書館蔵「県報第一六五四号」)

資料10 明治四十年十二月

南埼玉農会重要物産品評会四日目(於久喜小学校)

(略)

第八号館家禽は本日に至り尚出品増越し来り為ニ陳列場狹隘を感じたるに彼の熱心なる大相模方面の愛禽家

に場々に新テする有格なり 同日午後までに毎朝五八六〇人に達したり。

(明治四十一年一月一日付関東新報)

七、農芸競技会の始まり

戦前まで続いていた村単位の品評会・共進会の呼び物の一つに繩綯(ない)競技が等あった。

資料11 明治四十二年十二月

南埼玉郡農会主催第六回重要物産品評会

(通知書) 品発第一三〇号

来ル二十五日品評会褒賞授与式当日別紙方法ヲ以テ農芸競技会開催致候條来ル十二月十五日迄ニ競技員左記ノ通り退出御報告相或度及照会候也

明治四十二年十二月三日

第六回重要物産品評会 四

〇〇長殿 記

- 一、繩綯競技員 一名以上
  - 一、衣装競技員 一名以上
  - 一、運搬競技員 一名以上
- 農芸競技方法

資料12 大正十四年「太郎兵衛稲二閔スル沿革」より

献納 ○ 大正元年陸軍特別大演習ニ際シ埼玉県川越町行在所ニ献納セリ

○ 大正四年御即位大典ニ際シ南埼玉郡各町村ノ指定ニ依リ献納セリ

尚大正九年十月十五日皇后陛下新シク大宮町二行啓ノ御幾多本県物産中黍ケナクモ木村ノ太郎兵衛稲ハ御買上ノ光榮ニ浴ス此他越ヶ谷町米商ヨリ宮内省納稲トシテ購入ノ注文ヲ受ケシコト數度ニ及ベリ

伝献願

一 祝餅 壹重

右 皇孫殿下御誕生奉祝ノ為メ献上致度候條 特別ノ御診議ヲ以テ御伝献相成度此段奉願候也

大正十四年十二月八日

埼玉県南埼玉郡出羽村農会

代表 井出門平

埼玉県知事 斎藤守因殿

(埼玉県立文書館蔵)

資料13 大正三年一昭和三年

本県に於ける水稻品種の変遷

(略)

大正十一年 水稻品種分布調査成績  
稲品種數五六一品種 作付面積七四七〇町步中百町步

八、太郎兵衛稲の盛衰

太郎兵衛稲の全盛期は明治期から大正期までであった。昭和に入ると衰退し、戦時色が濃くなると質から量へと転換し収穫の少ない太郎兵衛稲の作付は激減していった。

(八潮市立資料館蔵)

以上の作付面積を有する品種

順位	品種名	分布区域	作付面積(町)
1	太郎兵衛	全県下	一二五〇
2	小針	足入比叺大北南葛	九五七
3	三次郎	〃	八九一
4	愛国	足入比叺大北川	三九八
5	柿ノ木	足入比大北南	三一〇
6	福沢	葛	一九八
7	柳	足入比叺北南川	一六四
8	玉	足入北南	一五八
9	保丹	足入川	一五七
10	関取	入比叺大北南葛	一五五

(以下略)

大正四年・昭和三年水稻品種別生産米検査俵数調比較  
稲の部(一万俵以上ノ検査俵数ヲ有スル品種)

大正四年		昭和三年	
順	品種	順	品種
1	太郎兵衛	1	三次郎
2	小針	2	小針
3	三次郎	3	玉
4	愛国	4	保丹
5	柿ノ木	5	福沢

順	品種	受検俵数	%	順	品種	受検俵数	%
1	太郎兵衛	三〇,〇三九	二四%	1	三次郎	四一,四九二	二〇%
2	小針	一〇,〇〇二	一%	2	小針	二二,五〇八	二%
3	三次郎	一三,三三〇	一〇%	3	玉	一八,二七六	九%
4	愛国	一〇,〇〇〇	八%	4	保丹	一五,六三三	八%
5	柿ノ木	一〇,〇〇〇	八%	5	福沢	二二,二七六	六%

(以下略)

(埼玉県立農事試験場編「埼玉県下に於ける水稻品種調査成績」)



11年表

太郎兵衛 櫻 閑 係 II

慶長年間

四丁野村名主会田太郎兵衛早稲播より優良種技種

元禄年中

大間野村中村某太郎兵衛糯を沼田に移植成績優良なる糯を作出

明和8年11月

瓦曾根村中村家幕府より御膳細糯買受人に指定(天明9年説あり)

天明4年1月

中村彦左衛門苗字帯刀許可

明治5年調査

「地誌提要」埼玉県物産大沢町の桃、鉤上村の糯米

明治10年6月21日

「埼玉県地誌略」埼玉郡の物産越ヶ谷糯

明治10年8月11月

第一回内国博覧会於上野公園、越ヶ谷町会田銀之助偶人出品花紋草受賞、入場者四五万人

明治11年12月

越ヶ谷糯東京正米相場で最高値

明治23年4月

第三回内国博覧会上野公園糯米出品者蒲生村一、出羽村一、萩島村一、大沢町一、増林村四、新方村一

明治23年

出羽村農会主中村悦蔵、会員中村貞次郎等品種改良により「明治太郎兵衛糯」を作出

明治24年11月

越ヶ谷町外十三町村連合勸業会発足

明治25年4月

南埼玉北中葛飾三部穀物品評会粕壁町自助館で開催太郎兵衛糯は上位独占

明治28年4月

第四回内国博覧会京都岡崎公園で開催、入場者一三万人、木綿の部へ萩島村堀井甚五右衛門、越ヶ谷町小泉庄次郎、小泉市右衛門、大沢町正野清太郎ら出品

明治33年3月25日

南埼玉郡農会主催第一回重要農産物共進会岩槻町で開催

明治34年11月7日

南埼玉郡農会第一回稲作模範作共進会袋賞授与式岩槻町郡後所で挙行

明治36年3月8日

第五回内国博覧会大阪天王寺公園で開催入場者四三五万人。櫻井村から大豆を中村四万吉、中村定八郎、山口喜三郎、小島忠太郎、中村周太郎、須賀茂忠次、米は深野弘一が出品

明治42年7月

「越ヶ谷糯の由来」埼玉新報に掲載

明治42年12月23日

南埼玉郡農会主催第六回重要物産品評会粕壁小学校で開催出羽村農会糯の部で四等賞この時調絢、衣装、運搬の農芸競技会が始まる

明治43年

出羽村大字四丁野老農大野市五郎太郎兵衛糯より「玉糯」を作出

大正元年11月15日

陸軍特別大演習川越行在所に太郎兵衛糯献納

大正4年11月10日

御即位大典に際し太郎兵衛糯を献納

大正4年

埼玉県水稻品種別生産米検査俵数調糯の部で太郎兵衛糯は全県下の24%を占め第一位

大正9年10月15日

皇后陛下大宮町行啓の御太郎兵衛糯御買上

大正11年

埼玉県水稻品種別作付面積で太郎兵衛糯は第一位

大正12年頃

櫻井村太郎兵衛糯反当收穫量二石二石一斗

大正14年12月8日

皇孫殿下御誕生奉祝祝餅壹重献上

大正14年12月

出羽村農会「太郎兵衛糯二関スル調査概要」報告

昭和3年

埼玉県水稻品種別生産米検査俵数調糯の部で太郎兵衛糯は全県下で8%で第四位に転落

昭和20年8月15日

終戦

昭和22年11月19日

農業協同組合法公布

昭和29年11月3日

町村合併「越谷町」

昭和31年12月

越谷町農産物共進会大沢中学校で開催、児童生徒展覧会、農具展示会同時開催

昭和50年12月15日

広報こしがやに「越ヶ谷糯」消えゆくもち米」掲載

平成5年3月3日

朝日新聞「太郎兵衛もち」細々と続く特産米越谷市品種保存へ」掲載

平成5年3月16日

埼玉新聞「太郎兵衛もち保存へ」が掲載







第二表 蒲生村大熊家の幕末期(安政六—慶応四)の反当播種量等

品 種	反当播種量(收穫量/作付面積)		收 穫 期	收穫比(收穫量/反播種量)	反当收穫量(收穫量/作付面積)
	年数	平均(最低—最高)			
早 稲	①	⑩	から十	⑧	⑧
中 稲	②	⑨	くわへ田(7/晩—8/から十)	③	③
晩 稲	③	⑥	文久 年月/日(最初—最後)	④	④
同	④	⑤	年数	平均(最低—最高)	年数
太郎兵衛	⑤	④	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
中 川	⑥	③	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
東右衛門	⑦	②	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
入長間	⑧	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
三軒家	⑨	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
入源蔵	⑩	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑪	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑫	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑬	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑭	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑮	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑯	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑰	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑱	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑲	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	⑳	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉑	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉒	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉓	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉔	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉕	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉖	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉗	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉘	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉙	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉚	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉛	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉜	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉝	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉞	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㉟	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊱	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊲	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊳	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊴	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊵	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊶	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊷	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊸	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊹	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊺	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊻	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊼	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊽	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊾	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)
同	㊿	①	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)	平均(最低—最高)

注「反播種及肥料制限」による。△印は、幕末期の資料の不足するものについて、明治初期(M二—十二)の資料を補足したことを示す。

第三表 蒲生村大熊家の手作経営と稲の品種別播種量

年 号	作付面積(收穫量)	品種数	から十	太郎	中川	重右	入源蔵	三軒家	おせ餅	二軒家	太郎兵衛	入長間	浅右	をく	西国	みは	かり	合計	秘種
安政六	10000	6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
文久二	10000	6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
万延二	10000	7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
元治元	10000	6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
四	10000	7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
三	10000	7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
二	10000	7	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
一	10000	6	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000

品種名	栽培年数と栽培期間	年数	反 当	
			平均	(最底—最高)
かからす	四〇年(安政六一明治三十五年)	⑧	一八、八七	(八、七五—二六、〇〇)
おくからす	十二年(明治九—同三十八年)	⑪	二二、二八	(二三、三三—二六、九五)
倍からす	六年(明治二一—同三十九年)	⑥	二〇、七二	(二六、〇〇—二六、六〇)
毛からす	一年(明治三十四年)	①	一七、七五	( )
太郎兵衛	六十年(安政六一—大正九年)	50	一九、五一	(二二、七八—二四、八六)
太郎兵衛入出し	一年(元治二年)			
入源蔵	三十五年(安政六一—明治一十八年)	23	二一、三一	(一七、〇〇—三〇、三四)
与茂八桐源蔵	四年(明治十一—同十三年)	①	二〇、九五	( )
長をく源蔵	一年(明治十五年)	①	二二、〇〇	( )
本をく源蔵	一年(明治十五年)			
結源蔵	三年(明治二一—同二十九年)	②	二三、四八	(二八、四六—二五、六六)
晩源蔵	二年(明治二十四—同二十五年)			
入長間	三十五年(慶應二—明治四十二年)	29	二〇、七九	(二〇、〇〇—二六、一五)
本長入長間	三年(明治六一—同八年)			
中入長間	二年(明治六一—同七年)	①	二〇、六四	( )
をく西国	一年(慶應二年)	①	二二、三〇	( )
西国	九年(慶應二—明治十五年)	⑦	一九、八〇	(二五、五〇—二六、二八)
撰西国	一年(明治三年)	①	一九、〇九	( )
本西国	一年(明治十二年)	①	二二、三五	( )
愛国	四年(明治四十一—大正三年)	②	二一、〇〇	(二〇、〇〇—二二、〇〇)
改良愛国	四年(大正二—大正六年)	①	二一、〇〇	( )

注、「稲種及肥料扣帳」による。表一四は近世後期の越谷地方の農業……小沢正弘による

小池坊尊慶

真言宗登山派の総本山大和国(現奈良県)初瀬の奥山長谷寺第五世住持(在任)小池坊尊慶は「登山伝通記」によると尊慶、あざなを傾心と稱し俗姓は金田氏、天正三年(一五五五)越前守・谷に生まれる、とある。その出自は越谷の金田氏とあるだけで、つゞきかでないが、おそろしく越谷の源氏金田出羽家の一族であることには違いないであろう。なお小池坊とは慶長十八年(一六四三)に建立された長谷寺の備物の名である。



尊慶の中興山といわれる  
七左町高麗院の山門



出羽愛国婦人会の勤勞奉仕隊





町史編纂室

# 太郎兵衛糯について

筑波郡を一直線に南下し、丘陵地の将に尽きんとする所、萬頃の水田、小貝川に沿ふて、東西に遠るを見る、此処はもと谷原領と称せし所で、糯米の名産地である、この糯は僕も食べたことがあるが、玄米としての外形は悪いが、糯米の特徴を遺憾なく発揮し居り、非常においしい、多分広き面積に、此種類ののみを仕付くる故、花粉の間係上、斯く特徴を発揮したものであらう、

(後略)

今を遡ること、九十年前、明治四十三(一九一〇)年六月二十八日付の「いはらき新聞」に、「筑波片々(四)」という紀行文が掲載されている。なかでも、前記した「六、谷原領と太郎兵衛糯」の一節は、この土地の名産物の一つとして数えられる太郎兵衛糯の歴史を振り返る上でとても貴重な新聞史料である。

吾々の一絶書奥に於いて、糯米は、食卓への登場回数こそ減っているとはいへ、正月や祝事の際には、欠かせない存在である。伊奈の歴史を語る上で、名産物としてこの地を支えてきた歴史をもつ、太郎兵衛糯に関する話を紹介したいと思う。

そもそも太郎兵衛糯が入ってきたのは、江戸時代初期、寛永年中(一六二四―一六四三)のことであつたという。慶長年間(一五九六―一六一四)に谷原領の開墾に着手した、幕府代官伊奈忠治が、現在の埼玉県越谷辺りに太郎兵衛糯という良品種があるのを聞きつけ、種子の輸入を図り、試作したのがはじまりであつた。太郎兵衛糯は、氣候や風土によく合ひ、良質の糯米として産出され、以後、当地を代表する名産物になつていく。

明治の初年、東京で開催された正米品評会において、優等賞を受けたことで、明治の終りには、毎年年末になると、東京御供餅用や菓子製造の原料として輸送されるようになり、県内でも、糯米原種の筆頭の地位を築くまでに成長した。

昭和年間に入ると、財政政策や度重なる不況、恐慌の発生が、糯米にも大きな影響を及ぼし、「国産田糯の王」と称されるほどの戸価を挙げた同地の太郎兵衛糯生産に激しい動搖を与えた。

これに加えて、代用品種の出現もあり、各市町村に設立された農会は、農業の改良発達を図るべく、各地で共進会や品評会などの開催を指導し、類似品を圧倒するために、同種のさらなる品質向上を目指す

し、各方面への宣伝を行つていたのである。昭和七(一九三二)年十一月二十六日付の「いはらき新聞」には、次のような記事が掲載されており、太郎兵衛糯宣伝共進会の盛況よりと生産者の意気込みを伝えてくれる。

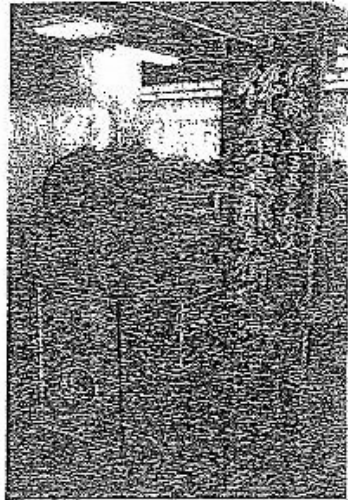
筑波郡南部連合農会主催の太郎兵衛糯米宣伝共進会は過級の暴風雨のため期日を変更して十二月一日より五日間同郡鹿島村小学校に開催と決定、該般の準備を行つてはいるが、出品は南部十ヶ村で既に八百余点に達し、各村の出品者は非常に意気込みである。

また、同地では、旧谷原領の開拓者、伊奈半十郎忠治翁の偉業を祀る伊奈祭が催されており、生産者の生活において、太郎兵衛糯がいかに大きな存在であつたかがうかがわれる。

昭和十年代以降、太郎兵衛糯は、火薬原料として輸出されたり、正月を迎えるに当り在京県人への正月餅米として配達されたりと、その活用範囲を広げ、この地域の名産物としての地位を確立するなかで、正月や祝事に際し、関東を中心とする一般家庭の食卓を彩る役割を担つていったのである。

現在の伊奈町において、この太郎兵衛糯を生産している農家は五、六軒を数えるのみであるという。しかし、この糯米の同地における歴史的意義を見ると、加えて、今なお、正月の餅や祝事の際のお赤飯、そして、太郎兵衛煎餅などに代表されるような菓子の原料として、確固たる位置を占めている糯米の重要性を考えると、改めて、その存在に目を向ける必要があるのではないかと切に思われる。読者の皆様にも、これを機に、今一度太郎兵衛糯に暖かい眼差しを向けていただけると幸いです。

町産業経済課でもPRしている



(つとむ)





## (1) 新品種の播改率

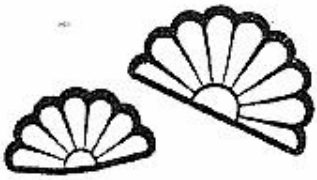
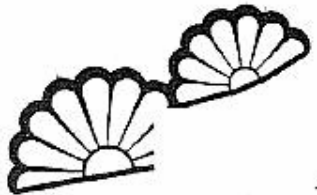
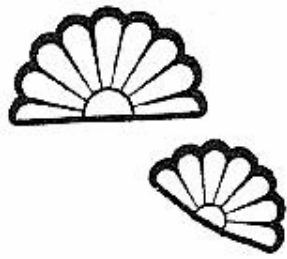
葉 / 表

〔茨城県〕

大 正 年 次					昭 和 年 次				
奨励品種 導入年次	新品種名	播改率 %	収取石	比較品種 収取石	奨励品種 導入年次	新品種名	播改率 %	収取石	比較品種 収取石
大正4年	金砂糖	4	2.05	日 糖	昭和10年	農林ノ号	5	2.16	上総コシレ
大正6年	金 銀	9	2.29	上総コシレ	昭和10年	農林ノ号	15	2.05	同益炭ノ号
大正8年	黒芒愛国	4	2.26	愛 国	昭和12年	太平糖	4	2.70	太郎兵衛糖
大正9年	信×愛	3	2.35	愛 国	昭和13年	中益ノ号	5	2.70	黒芒愛国
大正9年	信×愛	17	2.53	上総コシレ	昭和14年	農林ノ号	21	2.14	黒芒愛国
大正9年	愛国炭ノ号	17	2.53	愛 国	昭和20年	農林25号	10	2.33	黒芒愛国
昭和10年	信州産子ノ号	14	2.34	信州産子	昭和10年	農林27号	4	2.76	黒芒愛国
大正11年	玉梅炭ノ号	14	2.50	玉 梅	昭和25年	泉山4号	12	2.65	黒芒愛国
大正12年	中生輝力	5	2.60	中生輝力	昭和26年	トネワセ	7	2.71	農林ノ号
大正13年	信濃炭ノ号	12	2.02	信 濃	昭和27年	農林35号	7	2.76	八洲千本
大正13年	同益炭ノ号	13	2.00	同 益	昭和27年	コトノメテ	6	2.38	太平糖
昭和14年	愛国炭ノ号	10	2.90	愛 国	昭和10年	金南ノ号	23	2.39	八洲千本
大正年次における 新品種の平均					昭和30年までの 新品種の平均				

〔茨城県〕

	昭 和 25 年		昭 和 15 年		昭 和 24 年		昭 和 30 年	
	早中晩播別 (早前番)	奨励品種名	早中晩播別 (早前番)	奨励品種名	早中晩播別 (早前番)	奨励品種名	早中晩播別 (早前番)	奨励品種名
北 相 馬 野	早 生	上総コシレ 太郎兵衛糖	早 生	農林ノ号 農林7号 農林14号 太郎兵衛糖	早 生	農林ノ号 農林14号 太平糖 信州12号	早 生	農林ノ号 トネワセ 農林14号 太平糖
	中 生	早生肉取 愛国炭2号 信濃炭ノ号 黒芒愛国 信×愛ノ号 玉梅ノ号 中生輝力	中 生	早生肉取 中益3号 愛国炭2号 信濃炭ノ号 黒芒愛国 玉梅ノ号	中 生	愛国炭2号 黒芒愛国 農林27号	中 生	東山4号 農林27号
	晩 生	同益炭ノ号 南 産 同 取糖	晩 生	同益炭ノ号 農林3号	晩 生	農林25号	晩 生	農林25号 農林35号 金南ノ号
		(1.816)		(51.00)		(33.16)		(20.74)
			(17.34)		(11.76)		(20.00)	
	(5.38)		(11.01)		(6.71)		(15.17)	



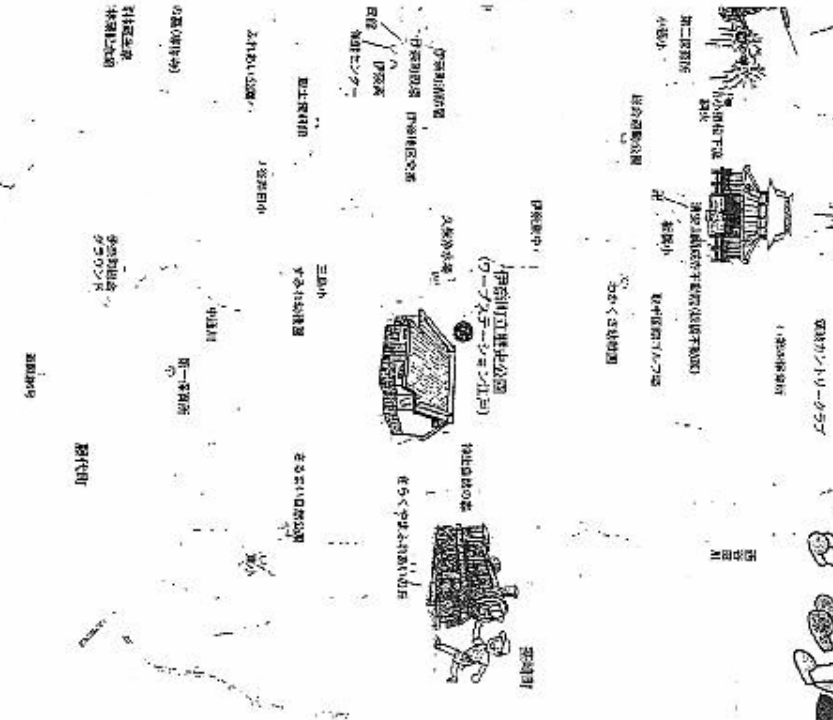
太郎兵衛煎餅

お徳用

茨城県筑波郡伊奈町大字市野深553  
電話 0297 (58) 0203

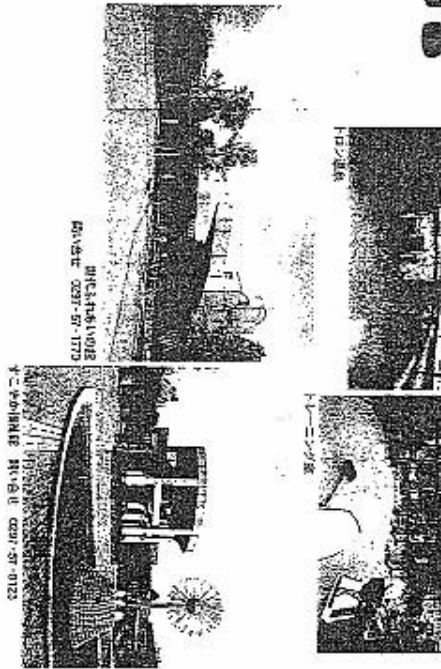
名称	煎餅
品名	あられ
原料	国内産もち米100% 香附(小麦、大豆含む) 砂糖、調味料(アミノ酸等)
内容量	33g
賞味期限	別途記載
保存方法	直射日光を避け、涼しい場所で保存してください。

(有) 大久保製菓商店  
茨城県伊奈町市野深553-1  
0297-58-0203



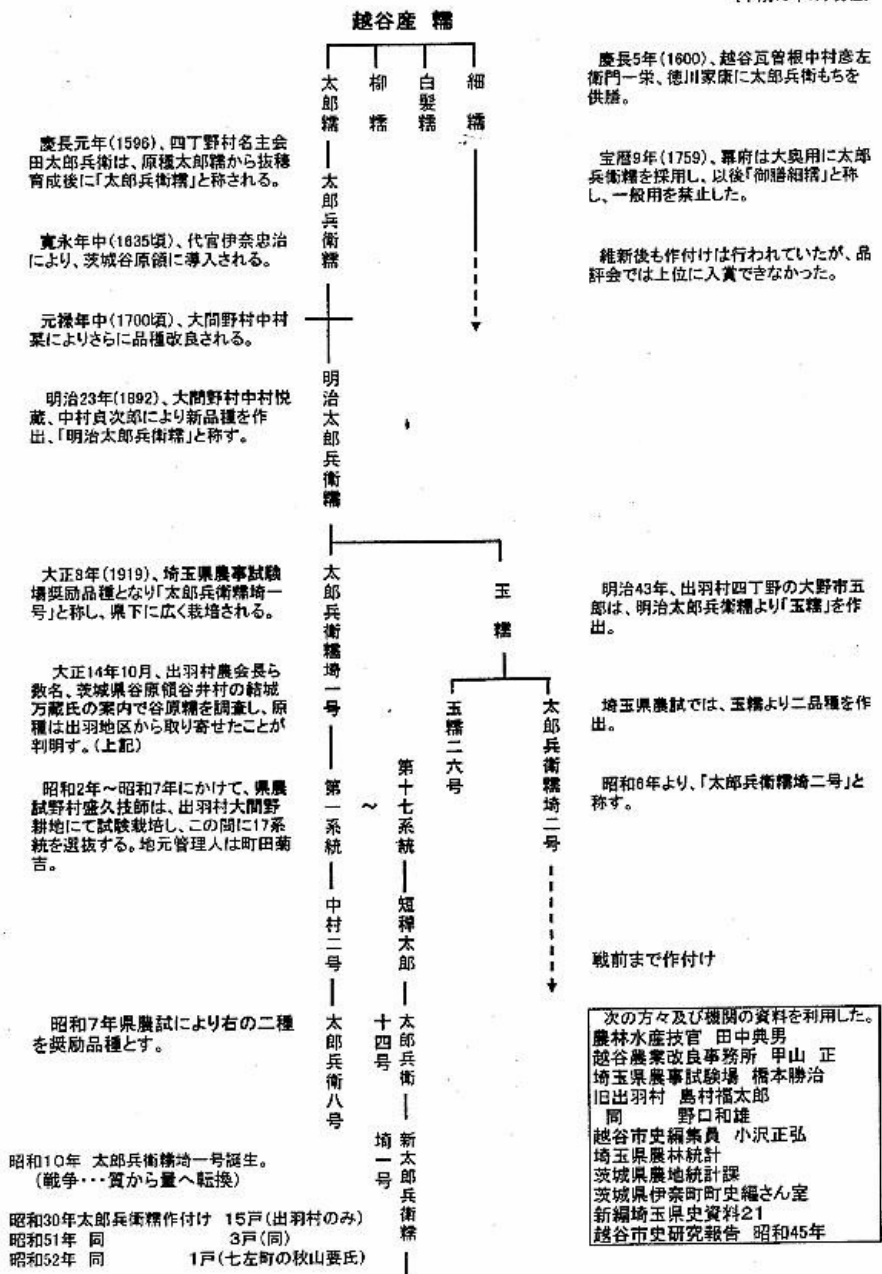
あられの歴史

あられは、江戸時代からあるお菓子で、その大昔は、コシに力や豊富な野菜の恵りを含んでいました。また、「太郎兵衛もち(米)」は、江戸向村の粟木年間以来、当館においで作り続けられているもち米で、食料と味が自慢の一品です。



# 越谷産 太郎兵衛糯の系統図

高崎 力 試案  
(平成18年1月現在)



次の方々及び機関の資料を利用した。

農林水産技官 田中典男  
越谷農業改良事務所 甲山 正  
埼玉農事試験場 橋本勝治  
旧出羽村 島村福太郎  
同 野口和雄  
越谷市史編集員 小沢正弘  
埼玉農林統計課  
茨城県農地統計課  
茨城県伊奈町町史編さん室  
新編埼玉県史資料21  
越谷市史研究報告 昭和45年







米一俵の実数

ところで、米取引でとくに重要なのは、その量と質である。ところが、当時は米俵一俵といっても四斗とはかぎらず地方によってまちまちであった。次に幕末のものであるが「諸国産米内実量」にふれておこう。

江戸に多く入津した地廻り米についてみると次のようである(『中央区史』上、数字の単位はたとえば武州神奈川米三九五とあるのは、三斗九升五合のことである)。

武州	神奈川米	三九五	上州	安中米	四三〇
	葛西米	"		高崎米	四四〇
	越ヶ谷米	"		館林米	四二五
	忍領米	四二〇	野州	宇都宮米	四一〇
	新方米	三九五		太田原米	四五〇
	八丈領米	"		烏山米	三九五
	埼玉米	四〇〇		烏賀米	四二五
	幸手米	三九五	常州	黒羽米	四二〇
	金沢米	四一〇		下館米	四二五
	入間米	三九五		下妻米	四二〇
	野方米	"		府中米	四三五
	羽生米	三九〇		山外米	四二五
	足立米	三九五		山内米	四一五
	稲毛米	"		笠間米	"
	岩槻米	三九〇		牛久米	四一〇
	川崎米	三九五		杉山米	四三〇
上総	佐貫米	四二五		行方米	四一七
	太田郡米	"		龍ヶ崎米	四三〇
	久留里米	四一五	奥州	小棚倉米	三三〇
上総・下総	多古米	四〇八		大棚倉米	三七〇
下総	古河米	四〇〇		福島米	四二〇
	上代米	四二五		白川米	四五〇
	結城米	四一〇		二本松米	四四〇
	生実米	四三五		仙台廻米	四八五
	行徳米	三九五			

以上みたように江戸に入津した地廻り米は四九に及んでいる。これを多いものからみると、三斗九升五合が一三で約二七パーセント、ついで四斗二升五合が七で約一四パーセント、さらに四斗二升と四斗一升が各四でそれぞれ約八パーセント、などとなっている。



米の品質 米の品質についてはどのようなようであったかについてみておこう。

まず全国的に目を向けてみると、次のようなランクがあった(前掲書)。

極上	播州 明石天守米	播州 姫路米	日向 相良米
	龍野 天守米	龍野 米	長門 ツノ米
	姫路 天守米	赤穂 米	下クマケ米
		日向 佐土原米	
		薩摩 鹿兒島米	

次に江戸で多く扱われる、地廻り米についてみると次のようであった

上ノ上(二番目)	武州 稲毛米	奥州 長沼米	下総 土代米	山外 米
	川 越米	田村 郡米	常州 南口米	奥州 仙台南金米
	房州 長狭米	武州 幸手米	下総 生実米	中ノ下(六番目)
	武州 岩槻米	上ノ下(三番目)	野州 喜連川米	野州 鳥山米
	下総 古河米	野州 茂手木米	奥州 相馬米	常州 卯宿米
	上州 館林米	常州 土浦米	小棚 倉米	河内 郡米
	武州 忍須米	松川 米	相州 米	谷田 部米
	上州 高崎米	野州 西方米	三浦 米	龍ヶ崎 作徳米
	上ノ中(三番目)	佐久山 米	中ノ中(五番目)	奥州 津輕蟹田米
	武州 埼玉米	常州 栗米	常州 穴戸米	駄下 米
	柿 米	下総 香取米	奥州 大棚倉米	黒石 米
	羽生 米	上総 佐貫米	野州 増子米	会津 猪苗代米
	久喜 米	野州 壬生米	太田 原米	下ノ上(七番目)
	奥州 白川米	奥州 野前米	常州 笠間米	常州 新治郡米
	二本松 米	上野 米	奥州 津輕地納米	杉山 米
	常州 下館米	岩城 米	野州 黒羽根米	奥州 仙台平米
	上州 安中米	常州 龍ヶ崎米	下総 相馬郡米	下ノ中(八番目)
	前橋 米	中ノ上(四番目)	大和田 米	奥州 南部志和米
	伊勢崎 米	下総 佐倉米	野州 芳賀郡米	南部 米
	野州 足利米	野州 宇都宮米	下総 三弥殿米	下ノ下(九番目)
	都賀 米	下総 結城米	奥州 会津厩平米	奥州 仙台免米
	奥州 三春米	上総 久留里米	常州 山内米	
	守山 米	常州 行方米		
	常州 北口米	奥州 仙台本石米		
	上州 小幡米	上総 市原米		
		常州 府中米		

当然のこととして、米俵の値段は、内実量も多く品位のよいものが高値となった。